



高原の自然館ニュースレター

# 苅尾電波塔

第 52 号

2008.4.2

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。  
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」の名前をつけています。

## も く じ

### お知らせ

- － 観察会日程の変更
- － NHK 総合テレビ・広島県域で「八幡高原の四季（5分ミニ番組）」を放送
- － 『苅尾』の原稿を募集
- － 西中国山地自然史研究会の総会を開催

### 活動報告

- － 千町原と霧ヶ谷の観察会
- － カスミサンショウウオの産卵調査

### 観察会案内

- － 牛が首山の植物観察会
- － 臥竜山の野鳥観察会

## お し ら せ

### ● 観察会日程の変更について

牛が首山の植物観察会が、都合により5月10日から5月17日に変更になりました。

### ● NHK 総合テレビ・広島県域で「八幡高原の四季（5分ミニ番組）」を放送

八幡高原の四季の様子が下記の予定で放送されます。どうぞご覧下さい。

「命育む太古の湿原～春・八幡湿原～」  
10日(土) 12:40～12:45

「水潤うブナの森～春・臥竜山～」  
11日(日) 14:05～14:10

### ● 会報『苅尾』の原稿を募集

西中国山地自然史研究会の『苅尾』の原稿を募集しています。内容は西中国山地の自然や動植物に関する情報や自然に関わる活動報告、自然賛などで、600～1600字程度にまとめてください。写真を大歓迎します。あなたの見つけた小さな発見を、会員のみなさんにも伝えてください。

# 観 察 会 報 告

## ● 千町原と霧ヶ谷湿原の観察会

開催日時：2008年4月20日(日) 9:30  
講師：上野吉雄, 小宮啓吾, 佐久間智子,  
白川勝信

野焼きから2週間後の千町原で、いったい何が見られるのか、期待半分、不安半分の気持ちで観察会が始まりました。

自然館から道路を歩いて千町原まで行くと、早速、まだ葉のないノイバラの茂みの中に草原性の鳥、ノビタキとツグミがいました。火を付けた辺りから中へ入って行くと、ハルガヤなどの牧草がもう青々と新芽を伸ばしていました。防火帯として草刈りをした場所では、ゲンノショウコ、ヨモギ、ヒメジョオンなどが新芽を出していました。防火帯では、ハルガヤなどの牧草が少なく、火入れを行った場所とは、少し様子が異なるようでした。林のそばではコタチツボスミレが咲いていました。火入れを行った場所に生えている木を見ると、アカマツやイヌツゲの葉は茶色に変色していました。火の熱で茹で上がったのだと思われます。ノイバラの枝は黒く焦げていました。防火帯を通過して進んで行くと、掛頭山の方向にノスリを見ることができました。さらに奥に進んで行くと、山からの水がたまって水たまりができていました。水の中には、ニホンヒキガエルやヤマアカガエル、カスミサンショウウオの卵がありました。とてもたくさんの卵がありましたが、この中で大人になれるのはほんのごく一部だと思うと自然の厳しさを改めて感じました。水たまりではない場所にもニホンヒキガエルの卵がありました。卵は一直線に伸びていて、測定したところ、長さは3.9m、約3,000個の卵がありました。お昼は句碑の周りでお弁当を食べて、

午後から霧ヶ谷に移動しました。霧ヶ谷は水路に沿って水が流れ、靴では歩きにくいほど湿った状態になっていました。水がたまったところにはヤマアカガエルの卵があり、すでに孵化したオタマジャクシもたくさんいました。最後に実験地も観察しました。手作業で掘った水路は少し埋まっている箇所も見られましたが、中央には水がたまっており、ちゃんと機能しているようでした。早くも生きものたちが動き出している千町原と霧ヶ谷の今後の変化が楽しみ

です。[ さくまともこ ]



スタートしてすぐ、草原にてノビタキを観察。



防火帯を歩きながら観察。



山裾の湧き水に、ヒキガエルの卵塊がたくさんあった。ここにはカスミサンショウウオも産卵していた。小さいけれど、だじな湿地。



湿地帯に落ちていたヒキガエルの卵を見つけた。仕方なく産んでしまった未受精卵だろう。長さは3m90cm, 2列になっていて、10cmに約40個の卵があるので、一匹のヒキガエルが産むのは $(3.9 \div 0.1) \times 2 \times 40 \approx 3,120$ 個くらいだと分かった。



続いて霧ヶ谷の再生地を見学。どんな鳥が来るのだろうか？



側溝でカスミサンショウウオの成体を見つけた。再生事業が進めば、こうして側溝に落ちてはいられなくなるということも無くなるだろう。

### 【みなさんの印象に残った物】

「湿性生物の対応の早さ」「カスミサンショウウオ、ヒキガエルの卵。」「カスミサンショウウオを見たこと」「生き物（かえる等）のたくましさ」「ベニバラウソの観察」「カエルの卵の長いのにビックリ」「カスミサンショウウオの卵(2)」「かえるの卵の数を出したこと。」「ショウジョウバカマがたくさん咲いていた事(2)」「再生事業の5年先が楽しみになって来た。」「霧ヶ谷湿原の変化の大きさ」「水がよく回っていたこと」「湿原の大きさ」「カスミサンショウウオ」「タマゴ 小さな芽」「野鳥を見ることができた」「野焼きと言っても意外と焼け残るものが多いということ」

### 【参加したみなさんの感想】

「芸北では見えないと思った鳥が見られました。」「年間を通して開催すれば良い」「たくさんの動植物が見れて楽しかったです。」「色々な生き物に会えたり、生き物が再生したりしたのが感動でした。」「湿原再生には、まだまだ年月がかかるなーということをあらためて痛感した」「芸北の春はまだ遠いと思っていましたが何もかも生き生きとしてやさしい色につつまれているのに安心。」「自然の中で楽しく過ごした。」「楽しかったです。」「風景が広がってよかったです。」「草原の野焼きが思ったより焼ていなかった。」「自然にふれて良かったです。」「今、まさに変わろうしている自然の姿を見れて参考になった。今後の変化に注目していきたい。」「自然再生の変化がたのしみ」「長時間だが楽しかった」「今まで参加していた場所をゆっくり見ることが出来たこと」「とてもよかった。又参加したい」「野焼きの現場をはじめて見ることができました。ありがとうございます。」「植物以外いろいろな自然があっっておもしろい」

# 観 察 会 報 告

## ● カスミサンショウウオの産卵調査

開催日時：2008年4月29日（火）9:30

講師：内藤順一

去年と同じく晴天の調査日となりました。自然館に集合した参加者は23名です。最初に自然館の中で内藤先生より、カスミサンショウウオの生態や生息環境についてのお話を聞きました。産卵場所は山際の止水性の湿地ということです。二川キャンプ場へ移動し、調査方法を詳しく教えてもらい、5班に分かれて出発しました。今回も自然再生事業が行われている霧ヶ谷一帯が対象地です。ここでは湿原の再生のため、導水路が等高線にそって作られています。私たち3班はこの導水路を一本ずつ調査しました。道路ぞいから山に近づくルートで進みましたが、だんだんと生き物の姿が増えていくように感じました。一番多かったのはヤマアカガエルの幼生です。まだ胚の状態の卵塊も多数ありました。ヒキガエルの卵塊も2卵塊見つけることができ、お目当てのカスミサンショウウオの卵塊は最後に少数見つけることができました。八幡に生息するカスミサンショウウオは、尾に黄条がある高地型だと言われていますが、今回見つかった成体はほとんどそれがみられませんでした。途中で自己紹介をし、和やかな雰囲気ですべての調査をすることができました。また、オオコオイムシがいたのも印象的でした。最後に全員で集まり、それぞれの班の報告をしました。全体としては、卵塊を73卵塊、カスミサンショウウオの成体を1個、ヤマアカガエルの卵塊を124カ所で発見できました。再生事業の工事が終了したのが今年の12月だったので、まだ生き物の姿は少ないだろう、と思っていたのですが、多数見つけることができ、湿原の作り出す生命力に驚きました。この調査が湿原の保全につながり、たくさんの命を生み出す湿原の姿を見続けたいという思いでいっぱいです。調査に協力いただいた皆様、ありがとうございました。また来年もよろしくおねがいしますね。[このやよい]



カスミサンショウウオの高地型についての資料をもらい、説明を聞く。



導水路を歩き、卵を探した。



ヤマアカガエルの卵塊はとてたくさんあった。



導水路わきにてオオコオイムシを発見。



あれは何だ??と気になって手にとってみる。  
ヒキガエルの卵塊だった。



カスミサンショウウオの卵塊を見つけたので、  
胚の数を数えて記す。

### 【みなさんの印象に残った物】

「カスミサンショウウオの卵の感触」「土の中にも生きものがいるのに感動する」「カスミサンショウウオの卵塊 (3)」「湿地と両生類」「自然の中でみたカスミサンショウウオのたまご」「卵塊の中で動いているカスミサンショウウオの幼生」「自然の気持ちよさ。卵にさわった時の感触.」「かすみせんしょうお卵 アカガエルのうじゃうじゃおたまじゃくし」「カスミサンショウウオの卵とヤマアカガエルの卵が多く見られた事.」「カスミサンショウウオの卵を自分で見つけた事」「再生地でカスミ、ヒキ、アマ、ヤマアカの卵が多数確認できたこと.」「おたまじゃくしがいっぱいいた」「導水路のたまりの中に大量のおたまがいたところ」「カスミサンショウウオを見つけたこと. (2)」「おたまじゃくしの卵をいろいろみつけたこと.」

### 【参加したみなさんの感想】

「こんな機会でなければ、湿地を歩くことはないので貴重な体験でした.」「カスミを手にしたかった.」「湿地、ドロ中に卵塊があるとは思わなかった.」「この時季ならでは良かった.」「つくしや桜など春を再び感じることができてうれしかったです.」「同じ水流の中でも、産卵に適している場所は限られているのがおもしろい(集中して多数が利用).」「すごく楽しかったです.」「大変楽しく過ごさせていただきました.」「川の中を無理して進んでいったので、つかれた.」「とにかくつかれました. でも、発見出来て感動しました.」「多人数の調査は成果が大きい.」「しんどかったけど、びちゃびちゃでたのしかった.」「新たに掘った水路にヒキガエル等が卵を産んでいたのが、よかった.」「再生事業地でカスミサンショウウオが見つかってすごいと思いました.」「とても楽しかった。へビが出たのはこわかった」「さいごにサンショウウオの顔を見ることができてかんどうしました.」

## 観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

**基本セット**：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳  
**作業セット**：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

### ● 牛が首山の植物観察会

開催日時：2008年5月17日（土）9:30  
集合場所：豊平どんぐり村  
講師：佐久間智子  
準備：基本セット  
定員数：30名  
参加費：300円（ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円）

春の牛が首山で植物の観察をします。かつての里山を登りながら、ツツジやスミレなど、春植物を主に見ていきます。緩やかな山を登り切ると、ブナのある森にたどり着きます。さて、どんな花が見られるでしょうか。

### ● 臥竜山の野鳥観察会

開催日時：2008年5月24日（土）5:00  
集合場所：臥竜山雪冷水  
講師：上野吉雄  
準備：基本セット、双眼鏡、フィールドスコープ  
定員数：30名  
参加費：300円（ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円）

早朝のブナ林で野鳥の観察をします。コルリやマミジロ、ミソサザイなど、鳥たちのにぎやかなさえずりを聞いたり、姿を探したり、巣穴を見つけたりと楽しめます。アカショウビンにも出会えるかも！？気温が低いことが予想されます。しっかり防寒をしてご参加ください。

### 今後の観察会予定

2008年

- 5月10日 牛が首山の植物観察会  
※ 日程が変更になりました
- 24日 臥竜山の野鳥観察会
- 6月8日 阿佐山の植物観察会
- 14日 熊城山の植物観察会
- 15日 龍頭山の野鳥観察会
- 29日 霧ヶ谷実験地の植生調査
- 7月13日 湿原の昆虫と植物
- 27日 こども観察会 - 自然で遊ぼう -
- 8月3日 可愛川の水生生物観察会  
龍頭山の昆虫観察会
- 10日 カワシンジュガイの観察会

- 24日 雲月山の植物観察会
- 9月20日 霧ヶ谷実験地の植生調査
- 10月13日 サツキマスの観察会
- 11月8日 ゴギの産卵観察会・紅葉と冬芽の観察会
- 23日 千町原の草刈り
- 12月6日 巣箱・かんじき作り
- 7日 野鳥の観察
- 2009年
- 1月18日 冬を生きる動物たちの生態
- 2月21日 雪原のトレッキング
- 3月8日 雪原のトレッキング

夜、車で道路を走っていると、道の上に小さな影が見えます。カエルです。できるだけ踏みつづさないように、よろよろと避けながら走るのですが、とても避けて通れる数ではありません。こんな運転ができるのも八幡ならではですが、あまりの数の多さに最後には諦めて、「潰されたカエルもトビヤカラスの餌になるのだから・・・」と、自分に言い聞かせて走っています。夏を迎える前の、ちょっとした憂鬱です。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先（ご意見・ご感想もお待ちしております）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

[staff@shizenkan.info](mailto:staff@shizenkan.info)